

全国事務長会

発行 全国公立学校事務長会
事務所 東京都豊島区東池袋1-36-3
池袋陽光ハイツ203号
電話 03-5960-5666
FAX 03-5960-5667



ごあいさつ

全国公立学校事務長会会長 小杉 聖子



明けましておめでとうございます。
昨年は能登半島における大地震に続く豪雨災害に見舞われ、多くの人々が厳しい状況を余儀なくされたことにつきまして、心からお見舞い申し上げます。

全国公立学校事務長会は、教育現場の経営上の問題点を中心に、結束力をもって課題に取り組んでいくことで多くの賛同を得ました。学校関連の全国組織は、校長協会、副校長（教頭）協会、そして事務職員協会、事務長会などがあり、長きにわたり活動を行ってきました。

しかしながら、全国的な定数削減問題を発端として行政改革のもと、会合への出張もままならない現実により多くの県が休会に至り、その存在意義が希薄になりつつあります。

昨年、長崎県で開催された全国公立学校事務長会総会ならびに研究協議会では多くの参加者を迎え、マンネリ化脱却を考え工夫された研究発表や、全国から参加した事務長たちを歓迎する長崎県事務長会の皆さんのホスピタリティ精神に感動しました。

全国大会の意義が薄れていると感じられている事務長も多くいるかもしれませんが、教育現場は基本「人」の力で良くも悪くもなっています。各地域における連携や情報交換をはじめ、多くの事務長が環境改善と教育現場をより良くしようという意識がそれぞれの地区大会を盛り上げております。職場としての学校は小さな組織ですが、「教育」という国民の権利を守る組織としては全国規模となるものです。私たちはマネジメント力をもって、改善に臨んでいきたいと思っています。

昨年は働き方改革と各都道府県の取り組みや現状を報告しました。2回の理事会において、それぞれの問題点などが明らかになったところですが、根本的解決には程遠いのではないかと思います。例えば国を挙げてDX事業を推進しているところですが、学校においては保護者に対するの通知は紙ベースのものが多く、結果として非常にアナログな対応にならざるを得ないという現状があります。これは、将来的には条例等を見直していかなければ改善されないのではないかと思います。また、「時間短縮」を目指した施策が多くなりましたが、「人にかける時間」が除外されているように思います。学校では教員が一人一人の生徒にきめ細かい指導をすることが当たり前のように言われております。しかし、それは膨大な時間を要するだけでなく、人とか

かわる作業は果てしなく続くものであります。また、価値観が違えばそれは「余計なお世話」ということになり、保護者からのクレームへとつながっています。同様に事務室においても言葉のかけ方ひとつで、本庁へクレームとして挙がることも珍しいことではありません。極論ですがDX事業を進めるにあたって生成AIを利用することで、保護者や生徒への対応をすれば教職員のストレスを軽減することができるのではないかと思うようになりました。

そうなると、学校に「人」が必要ではなくなる日が来るかもしれません。そんな時代は遠い未来ではなく、ある種の危機感を感じています。疑問に対して正解を得られれば学校は必要ないという理論も成り立ちます。通信制が大躍進していますが、それも価値観を尊重した一つの在り方だと思います。改めて「学校」の存在意義を見つめていく必要があるのではないのでしょうか。「学校」は成長過程の大事な時期に、価値観が違う人たちと関わり、同じ価値観の人たちと出会い、内面をスキルアップできる場所だと思います。

私たちの仕事は、学校の基盤を整え誰もが安全に過ごせる環境を提供し、充実した時間を過ごすために魅力ある学校づくりに尽力することです。若い世代が「こんな仕事」と思うこともあるかと思いますが、誰かが喜び誰かが幸せになることは、仕事をするうえでの大切なモチベーションにつながっていると思います。事務長の皆さんが学校だけでなく、行政マンとして何を守るのか、そういうキャリアプランを若者に提示できるようになってほしいと思います。

魅力ある学校づくりというのは、面白いプロジェクトではないかと思います。そのためには何をしなければならぬのか。日頃の業務だけに追われてしまつとなかなか思いつかなくなるかもしれません。魅力ある学校にするためには、予算も必要ですし、その学校の組織が目標に向かうことが出来るかという課題をクリアしていかなければなりません。一つ一つの課題解決を継続するといつの日か達成できていることもあります。目標を持つことは大事なことです。組織のモチベーションを上げることも事務長の仕事だと思います。教育現場の課題が多い中で小さな達成感を継続することは、案外大事なこともかもしれません。子供たちの未来を少しでも明るくしたいと思っています。

今年もよろしくお願いいたします。



北海道地区の活動状況

北海道地区代表・北海道

鈴木 貴之

明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

北海道では現在、赤れんが庁舎のリニューアル改修工事を行っており、令和7年7月25日に完成予定です。国の重要文化財に指定されていることもあり、これまで無料で入館できましたがサービス向上のため有料となりましたが、これまで立ち入ることができなかった「八角塔」に入場可能となりました。

また、札幌市の中心街は次々と新しい商業施設がオープンしています「ココノススキノ」「モユクサッポロ」など観光客に人気のスポットとなっているようです。是非とも来道の際には美味しい食べ物とともに観光を楽しんでいただけると嬉しいです。

学校運営については、北海道でも普通教室へのエアコン設置が行われましたが、エアコン本体は家庭用エアコンのため設置方法の検討が進められました。

また、本部設定テーマを「簡易型空調機器の設置について」として各支部から意見などを持ち合い活発な意見交換を行いました。

北海道事務長会の運営については、コロナ感染症の影響もあり参集ができない状態が続いていましたが、ようやく5年ぶりに参集型による活動が可能となり実施することができました。今後も参集型を基本としながら実施していきたいと考えております。

続いて、北海道地区の昨年の主な研究活動等について、報告いたします。

【北海道公立学校事務長会総会・研究協議会】

令和6年5月27日（月）・28（火）の2日間、札幌市のホテルライフオート札幌において、開催いたしました。総会は、令和6年度の活動報告並びに令和7年度事業計画等について審議を行い、研究主題等の活動内容が決定されました。

1 総会（議事）

- (1) 6年度会務・事業・決算・監査報告
- (2) 7年度事業計画・予算審議、役員改選

2 研究協議 I

- (1) 全国公立学校事務長会活動状況報告
- (2) 講話「ヒグマの生態と被害対策について」

講師 北海道立総合研究機構

エネルギー・環境・地質研究所

研究職員 三浦 一輝 様

【北海道公立学校事務長研究協議会】

令和6年9月12日（木）・13日（金）2日間、札幌市のホテルライフオート札幌において、全道各校から188名の参加により開催いたしました。

1 講演「スクールロイヤーの実務」

講師 廣部・八木法律事務所

弁護士 森 洋仁 様

2 研究発表 I 「給食会計手数料節減の取り組み」

研究発表 II 「公宅売却について」

研究発表 III 「予算の節減について」

3 全国公立学校事務長会活動報告

4 グループ討議

「人材育成について」

【調査研究推進委員研究協議会】

令和6年11月22日（金）に札幌市内のホテルライフオート札幌にて開催しました。

調査研究活動のより一層の活性化を目的として、全道15支部の調査研究推進委員と本部調査研究部員及び本部役員が一堂に会し、ICT関連のテーマについて協議を行いました。

内容は以下のとおりです。

1 実技研修「AIを活用して業務改善」

NAGANO-R代表 長野 修二 様

2 研究協議「簡易型空調機器の設置について」

3 各支部情報交換

本会はこれからも事務長の果たすべき役割を踏まえ、学校運営に関わる課題解決に向けた活動を進めて参りますので、全国の会員の皆様には、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。



東北地区の活動状況

東北地区代表・宮城県
齋藤 仁

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、新しい年が良き年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

東北地区は毎年6月までに実施する研究協議会・総会（以下「研究協議会」という。）及び秋に実施する会長等連絡協議会（以下「連絡協議会」という。）の2つが主な活動となっております。それぞれ開催主管は輪番制となっており、今年度の研究協議会は青森県の主管により開催し、連絡協議会は福島県の主管により開催いたしました。いずれも、例年各県の抱える現状課題等を持ち寄り、情報交換の場及び親交を深める場として有意義な会となっております。それぞれの活動内容について、以下により報告いたします。

【東北地区公立学校事務長会研究協議会並びに総会】

令和6年6月20日（木）と21日（金）の両日、青森県青森市の「ウエディングプラザアラスカ」を会場に79名の会員参加により開催いたしました。総会後の記念講演では、ねぶた師の立田龍宝氏より「ねぶたに魅せられて～ねぶた師の1年～」と題し講演をいただきました。5歳の頃にねぶた小屋で制作中のねぶたを見て、その魅力に衝撃を受け、中学生で師匠に弟子入りとなった幼少期からの一途な思い、そして少年の心を捉えて離さないねぶたの魅力とは何なのか、聴衆を引き込む話に魅了された講演でした。その後、本部報告を全国公立学校事務長会会長 小杉聖子様よりいただき、翌日の研究協議会では各県より以下11題の情報交換題が寄せられ、それぞれに活発な意見交換がなされました。

- 1 学校諸納金の繰越金の取扱いについて（福島県）
- 2 保護者負担の在り方について、学校徴収金の見直しの動きはあるか？（宮城県）
- 3 私費会計におけるクレジットカードやポイントカードの使用について（秋田県）
- 4 公費によるエアコンの設置状況等について（福島県）
- 5 エアコン整備の状況について（山形県）
- 6 タブレット端末購入支援補助金の対象者について（福島県）
- 7 役職定年の実情と雑感について（宮城県）

- 8 弁当デリバリーサービスの導入状況等について（秋田県）
- 9 団体職員の雇用について（山形県）
- 10 教職員の旅費の見直しについて（山形県）
- 11 校長等の死亡叙位叙勲の手続きについて（青森県）

1日目終了後に、立田龍宝氏のご好意により、ねぶた小屋の見学ツアーが企画され、初めて見る和紙の貼り付け作業など大変貴重な体験をさせて頂き、青森の短い夏に情熱を注ぐ姿を目の当たりにして、心に残る研究協議会となりました。

【東北地区公立学校事務長会会長等連絡協議会】

令和6年11月15日に、福島県の主管により福島市の「コラッセふくしま」を会場に各県役員21名の参加により開催いたしました。各県から2題の情報交換題が出され、各県の状況について意見交換がなされ、情報共有が出来ました。最後に、全国的に課題となっている「事務職員の病休・休職者の実態について」と題し青森県の能代谷征則会長から話題提供があり、東北地区での実態について意見交換が行われました。

- 1 修学旅行引率旅費について（青森県）
- 2 建築資材高騰による校舎改築計画への影響について（秋田県）
- 3 障害者雇用の現状と課題について（秋田県）
- 4 PTAの経費をめぐる一連の新聞報道に関して（山形県）
- 5 入学金や諸証明書等の交付手数料の収納について（山形県）
- 6 職員の在校時間管理について（宮城県）
- 7 各県の事務長会及び事務職員に関する団体の現状を整理（宮城県）
- 8 学校管理の各種基金の運用方法について（福島県）
- 9 高等学校のトイレの洋式化について（福島県）

東北地区では年2回ではありますが、内容が濃く、更には連携を深める上で非常に有意義な集まりを実施しています。7年度の研究協議会は秋田県での開催です。秋田のグルメと言えば「比内地鶏」の出汁で作る「きりたんぼ鍋」と「いぶりがっこ」ですね。それに添えるのは酒所の秋田の酒が合います。締めには「稲庭うどん」で秋田の夜を堪能したいと思っています。今から楽しみです。

今後も東北地区の連携をより深めるような活動を進めて参りますので、全国の会員の皆様には更なるご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。



関東地区の活動状況

関東地区代表・千葉県
中澤 力生

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれては、新年が穏やかで良い年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

さて、昨年はパリ五輪、パラリンピックにおいて、日本選手の活躍は皆さん周知のとおり輝かしいものでした。中学生くらいの若手から、初老ジャパンまで、幅広い年齢層、多種目で国内を沸かせてくれました。現在、国では部活動の地域移行化や夏の高校野球の猛暑対策での2部制の導入など、これまでとは変わった社会の体制づくり、ルールになっていこうとしていますが、まだまだ部活動を通しての選手の育成など、学校の果たす役割は多々あります。我々学校の事務、施設を預かる立場として、今後も陰ながらサポートを進めていきたいと考えています。

新型コロナが5類に変わり、人的交流がコロナ前に戻ってきています。関東地区事務長会といたしましても、理事会、総会を通して連携を深め、各都県での取り組み事例を参考に、情報を共有し、それぞれの活動を活発にしていきたいと思います。

活動報告

【第1回理事会】

- 日時 令和6年7月4日(木)
- 場所 埼玉県さいたま市
ホテルブリランテ武蔵野

○内容

研究協議会並びに総会議案の確認の他、情報交換では、各都県事務長会の活動状況や人事問題、財務会計などの課題について話し合いました。

【第48回関東地区公立学校事務長会研究協議会並びに総会】

- 日時 令和6年7月5日(金)
- 場所 埼玉県さいたま市
ホテルブリランテ武蔵野

- 記念講演「なぜ日本だけが成長できないのか」
経済アナリスト 獨協大学経済学部教授
森永 卓郎 様
- バブル以降世界経済が成長を遂げる中で、各国

に比べ日本の成長は鈍化していると、経済評論家の立場からご講演をいただきました。

○研究発表3件

- ・栃木県「新任事務長年度初めの業務」
- ・群馬県「事務長の事務引継書」
- ・埼玉県「特別支援学校における学校徴収金について」

【第2回理事会】

- 日時 令和6年11月15日(金)
- 場所 千葉県千葉市
ホテルポートプラザちば

○内容

本年度の活動、予算の執行についての中間報告の他、第49回研究協議会並びに総会に向けた進捗状況の報告、情報交換では、前回同様各都県事務長会の活動状況や人事問題、財務会計などの課題について話し合いました。

今後の予定

【第49回関東地区公立学校事務長会研究協議会並びに総会】

- 日時 令和7年6月27日(金)
- 場所 千葉県千葉市
ホテルポートプラザちば

【第49回全国公立学校事務長会研究協議会並びに総会】

- 日時 令和7年8月7日(木)～8日(金)
- 場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

【第50回関東地区公立学校事務長会研究協議会並びに総会】

- 日時 令和8年6月(仮)
- 場所 神奈川県

【第50回全国公立学校事務長会研究協議会並びに総会】

- 日時 令和7年夏
- 場所 茨城県つくば市

この先関東地区大会をはじめ、全国大会も関東で続く予定です。

開催都県はもとより、関東地区各都県が一致団結して準備を進めてまいりますので、皆様のお越しを楽しみにしております。



近畿地区の活動状況

近畿地区代表・京都府
園田 保彦

1 活動報告

2府4県2市の地区で構成され、役員26名により年5回の地区代表者会を開催。事業計画・報告、予算・決算、全国公立学校事務長会との連携、各府県市からの連絡、報告及び情報交換を行っています。

地区代表者会は、集合形式とWEB会議を併用し、多くの役員が会議に参加できるようにしています。WEB会議では、会場全体はプロジェクタ等に投影、発言者はタブレット端末に向かって発言してもらい、WEB会議参加者にも会場の雰囲気や表情がわかるようにハイブリッドで開催し、情報共有を図っています。

会報編集委員会では、年2回（研究協議会特集号と各府県市だより）の会報誌発行を、調査研究委員会では、研究協議会並びに総会での研究発表に向けて活動しています。

2 研究協議会並びに総会

令和6年7月12日、大阪市内の「あべのハルカス」にて第46回近畿公立学校事務長会研究協議会並びに総会大阪大会が行われ、184名の参加がありました。

「あべのハルカス」は大阪が全国に誇る高層ビルで高さ300m、とても見晴らしの良い25階の会場は会議室であったため、会場設営を含め当番県の大阪府のみならずさまざまな工夫により無事に実施することができました。

総会では、開会あいさつに続き功労者表彰を行い、本会に貢献された10名の方々に感謝状が手渡されました。その後、令和5年度事業報告、会計報告及び監査報告があり、原案のとおり承認されました。続いて、令和6年度役員改選の後、新役員から令和6年度事業計画、予算案の提案があり、原案のとおり承認されました。最後に令和7年度当番県である兵庫県から開催日程、会場の案内がありました。

記念講演では、近鉄不動産株式会社アセット事業本部賃貸事業部の西畑宏昭氏を講師にお迎えし、『鉄道がつなぐエリア・未来・夢～けいはんな線・あべのハルカス・伊勢志摩～』と題して、これまでに手掛けられたプロジェクトの経験やエピソードを織り交ぜた御講演をいただきました。

駅の利用者が減ると駅の無人化や改札機を減らすことでサービスの低下⇒サービスの低下でイメージが悪くなる⇒沿線のイメージが悪いと人が流出し人口が減少する、この悪循環に陥っているのが鉄道の構造的な問題になっているとのこと。

近鉄けいはんな線新線建設では、住宅地に建設することで土地の値段が高騰し、建設コストが高くなるため運賃が高くなる⇒運賃が高いと利用客が増えず収入不足でサービスが低下する負のスパイラル。バブルが崩壊して地価が下落、資産価値が下落⇒売っても赤字になり開発が進まない⇒土地が塩漬け⇒人口が増えないという負のスパイラル。一番底に

ある状態で様々な収支改善という非常に重い課題に対し、部門を超えたプロジェクトチームのチーフとなってローコストオペレーションやランニングコスト削減等を目指し、必死になって絶対乗り越えるという決意をもち大幅なコストダウンを達成できました。

あべのハルカスの建設では、高さ制限が解除されたことで日本一の高さを目指し、わかりやすく使いやすい300mになったこと、環境意識の啓発のために、当時はまだ進んでいなかったLED照明を積極的に採用したり、外壁には一切コンクリートを使用せず空気の通る二重ガラスを用いて中に空調を入れたり、バイオガス発電、太陽光発電、風力発電、落水発電、ホテルの雑排水の再利用、雨水も再生して使用し、CO₂の25%削減は達成済みとのことだそうです。

2016年の伊勢志摩サミットでは、開催決定から1年足らずで準備をすることになったこと、サミット開催にはそのホテルにスイートルームが何室あるかで開催できる・できないが決まること、会場となった島には橋が2つしかなく警備がやりやすかったことなど、一步間違えると国際問題に発展する緊張した経験談にユーモアを交え、携わった者しかわからないこともお話しいただきました。

「できない言い訳を考えずに、できるためにはどうしたらいいのか考えるようになった」最後に胸にガツンと来る言葉をいただいて楽しい講演は終了しました。

研究協議では、調査研究委員会による「環境に関するアンケート」を実施し、回答のあった273校の集約結果について分析、報告がありました。

<電気>

- ・2府県市を除き一括契約している。契約から支払いまで府県市がまとめて行っているところもある。
- ・節電の取組としてエアコン稼働時のサーキュレーター併用、室外機の簾、遮光カーテンの設置
- ・エアコンのこまめな入り切りは節電につながるかは判断が難しい。
- ・稼働時期、設定温度は各校状況に合わせて対応
- ・照明器具を全てLED化しているのは8%
- ・太陽光発電装置の設置は40%

<水道>

- ・手洗いの自動水栓、トイレ用擬音装置はほとんどの学校で設置済
- ・トイレや屋外散水に雨水、井戸水の利用
- ・定期的に点検、計測して漏水の有無を確認

<総括>

節約に努めているが今まで以上の効果がある方法は難しく限界がきている。エネルギー資源の大切さを確認し引き続き節約に心掛け、大規模な対応を各府県市と一体となって取り組む必要があると発表がありました。

いよいよ2025年大阪・関西万博が開催となります。期間は令和7（2025）年4月13日（日）から10月13日（月）までの184日間、場所は大阪・夢洲（ゆめしま）です。皆さまの御来場を心よりお待ちしております。



中国・四国地区の活動状況

中国・四国地区代表・高知県
澤松 宝

新年あけましておめでとうございます。

本年が全国の会員の皆様にとりまして良き年となりますよう

心からお祈り申し上げます。

私たちの中国・四国地区は日本海・豊後水道・瀬戸内海・紀伊水道・太平洋に面し、それぞれ独特の歴史文化を持った各県によって構成されていますので、毎年輪番で開催される地区大会は、その折々の各県の課題や先進的な取り組みについて情報交換を行うことのみならず、各県の美味しい食べ物や特産品、観光地などの魅力に触れる機会となっています。

令和6年度の中国・四国地区研究協議会研修大会・総会は令和6年10月17日～18日に高知県高知市で開催し、総会・研究協議会81名、情報交換会80名の参加がありました。

以下に令和6年度の活動を報告いたします。

【活動報告】

1 理事会

各県の理事の出席により総会に先立ち、令和6年度役員選出結果並びに研修大会及び総会の運営について協議し、総会に付議する令和5年度事業報告、決算及び監査報告、令和6年度事業計画(案)及び予算(案)等の事前協議を行いました。

2 研修大会・総会

(1) 総会

先の理事会で協議した令和6年度役員選出結果についての報告及び令和5年度事業報告、決算及び監査報告、令和6年度事業計画(案)及び予算(案)、令和7年度研修大会・総会(広島県)の大会概要について審議し、全議案が承認されました。

その後、全国公立学校事務会の小杉会長から、全国の活動状況の報告や全国事務長会の動向について情報提供がありました。

(2) 研究協議

研究協議は全体会の後、高校部会と特別支援部会に分かれそれぞれの課題や取組について協議を行いました。

主な協議事項は「教員のなり手不足解消に向けて事務職員としてできること」「事務職員の人材育成」「学校徴収金の保護者負担軽減に向けての取り組み」、特別支援部会では「障害者雇用について」「修学旅行の業者選定について」「特別支援教育就学奨励費事務について」「スクールバスの位置情報の導入について」等について、課題解決に向けての各県の取り組み等に關連な協議が行われました。

(3) 研究発表

【広島県】

・広島県公立学校事務長会組織改編から7年、現状と課題

広島県事務長会の「学校経営・事務室経営における課題対応」「事務長の資質向上」「中堅・新任事務職員育成」の3つの委員会の取り組みについて課題の明確化と解決への手立て、これ

からの目標について発表がありました。

【愛媛県】

・魅力化推進の取り組みと今後について～普通科改革支援事業3年目を迎えて～

全校生徒数の約3割が全国15都府県からの入学生という、日本一細長い半島「佐田岬」に位置する愛媛県立三崎高等学校の、地域の支援を受け、地域と連携した特色ある取り組み「せんたんプロジェクト」について、事務職員がどう関わるのかについて発表がありました。

(4) 講演会

2016年ゆるキャラ選手権グランプリに輝き、現在も全国のイベントに引っ張りだこの、須崎市のマスコットキャラクターしんじょう君を生み出した「元高知県須崎市役所職員」で、現在は「株式会社パンクチュアル 代表取締役 守時 健氏」を迎え『地方創世の理想と現実～本当の地域活性化とはなにか～』と題し講演会を開催いたしました。

岡山県出身の守時氏が大学時代に旅行で訪れた須崎市に惚れ込み卒業後須崎市職員となり、しんじょう君とのタッグで、それまで200万円程度であった、須崎市の「ふるさと納税額」を1年で300倍の6億年まで引き上げ、2023年には34億円に達するという驚異的な貢献をされ、生態系が他のゆるキャラたちとは一線を画しているような、このキャラクターを生み出した方が、日々どんなことを考えているのかを自らの生い立ちを交えて講演いただきました。

私個人は、守時氏の独特の雰囲気から、ある種特別な思考を持てられるのかと先入観を持っていましたが、「成功と失敗」を繰り返しながら「情報収集」と「徹底的な分析」を続ける地道な努力、常に「PDCAサイクル」に取り組んでいるなど、私たちの職務に通じることばかりであったことに感嘆いたしました。

3 情報交換会

情報交換会には、講演をいただいた守時健氏、小杉会長、高知県教育委員会事務局、高知県事務長OB会からも参加いただき総勢80名で楽しいひと時を過ごさせていただきました。アトラクションでは、高知海洋高校ツナガールによるマグロの解体ショーを披露していただき、解体されたマグロは各テーブルに振舞われ、高知の地酒と一緒に参加者の皆さんに楽しんでいただきました。

令和10年度は中国・四国地区が全国大会を担当することになっており、高知県での開催を予定しています。

令和4年4月から放送されたNHK連続テレビ小説「らんまん」(モデル：高知県佐川町出身 牧野富太郎博士)、10月から放送された「ブギウギ」(モデル：現香川県東かがわ市出身 歌手笠置シズ子さん)に続き、令和7年4月からは、「それいけアンパンマン」の作者やなせたかし氏(高知県香美市出身)と妻小松暢さん夫婦をモデルとした「あんぱん」が始まります。

関連施設も充実していますし、温泉や名城、文化遺産など観光名所や山海の幸に恵まれた中国・四国地区に全国の皆さんがたくさんおいでいただけますよう、よろしく願いいたします。



九州地区の活動状況

九州地区代表・佐賀県
石橋 邦 広

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、新たな挑戦と前進の実りある年となりますように心からお祈り申し上げます。

今年度の年末年始は、暦の関係で9日間と休みが長くありますが、家族団らんでのんびりと過ごしたり、旅行に出かけたりとかして過ごされていることかと思えます。今年の干支は巳年です。蛇の抜け殻を財布に入れておくと金運が上昇すると言われていますが、蛇が脱皮をすることから「再生と繁栄」を象徴し、それが金運や富と結びついているみたいです。

さて、九州地区公立学校事務長会は、「九州はひとつ」の合言葉の下、会員相互の知識と経験の情報交換を行い、学校管理運営を円滑にするために学校事務や事務長の職務における課題等を共有し、更なる業務の効率化や簡素化、改善を目指し、調査・研究・協議等に取り組んでいます。

以下に、令和6年度の活動状況について報告します。

1 理事会

令和6年7月31日に長崎市において、第46回九州地区公立学校事務長会総会長崎大会の前々日に令和5年度第2回理事会を開催し、総会に付議する令和5年度事業報告、決算及び監査報告、並びに令和6年度役員選出案、事業計画案、予算案等について協議しました。

また、令和6年11月29日に佐賀市において、令

和6年度第1回理事会を開催し、翌年度に開催する第47回九州地区公立学校事務長会研究協議会並びに総会及び功労者表彰について、その概要を協議しました。この他、各県照会事項やコロナ禍前まで行っていた校種別研究協議などについて話し合いました。

2 総会

令和6年8月2日に長崎市において、第46回九州地区公立学校事務長会総会を実施しました。なお、同九州地区大会は、長崎市において第48回全国公立学校事務長会長崎大会と同時期に開催することから、例年行う研究協議会については実施せずに総会と功労者表彰のみを行いました。

概要については次のとおりです

- 功労者表彰 表彰者 12名
- 総会 議案 6件

以上が令和6年度の主な活動報告となります。

最後に皆さんは、赤れんがに白い石を帯状に配置した華やかなデザインの建物である東京駅丸の内駅舎の設計をした日本近代建築の父、辰野金吾（佐賀県唐津市出身）をご存じですか？日本銀行本店旧館や大阪市中央公会堂など、日本を代表する名建築も手掛けています。東京駅の八角形のドームの天井に取り付けられている8羽の鷲と8つの干支のレリーフがありますが、4つの干支(子卯牛酉)が足りません。実は、辰野の故郷である佐賀県の「武雄温泉楼門」にあります。朱塗りの楼門は、まるで竜宮城を連想させる鮮やかな色彩と形です。干支が分かれているのには、何かの意図があつてのことなのかわかりませんが、機会があればぜひ佐賀県に訪れてみて下さい。また、呼子のイカや佐賀牛などの美味しいものも堪能下さい。



令和6年度 第3回理事会の実施報告

令和6年度第3回の全国理事会が12月6日(金)13時から品川総合区民会館きゅりあんにて行われた。13時から議案5件、協議1件の決議と報告2件が行われ、その後各部報告が行われた。

1 議事

(1) 令和6年度活動報告(中間報告)、活動の記録<審議>→承認

今年度、ほとんどの地区大会に小杉会長が出席した。その地区ならではの問題を取り上げ、地域の文化人による記念講演の実施など、大変有意義なものであったと話した。

「休職・離職の調査」を4月と10月の2回にわたって実施した。

今回の調査の結果、4月にはほぼ埋められていた欠員に対して10月調査時、休職及び退職者の数は大幅な増加を見せた。

この件については、問題提起を行っていく。

「教育現場におけるDX化の在り方について」

入口のみ電子化が進められているが、処理の過程や最終的な通知の段階では紙媒体での処理が多くなっている。また、電子化に対応できない保護者に対するフォローも含めてより多くの事務職員が必要となっている。

(2) 令和6年度予算執行状況見込(中間報告)<審議>

下記のとおり報告が行われ、承認された。

収入決算額	18,249,928円
支出決算額	12,266,744円
残 額	5,983,184円

(3) 会費改定について<審議>→承認

会員の減少、休会県市の増加により会費収入の減少と、大会参加者の減少は会の運営に大きな影響をもたらしている。さらに、諸物価の高騰によりWEB関係経費を含む運営必要経費の支出が増加している。

本会費は平成13年に値上げしてから、高校では23年間、特別支援学校では10年間値上げをしていない。

以上のことから会費の値上げを提案したい。

値上げ額については、現行の3,000円を4,000円に、令和8年4月1日より改定したい。

これに伴い、地方大会での準備金を250万円から300万円へ増額することを検討している。

質疑1 「会員数の扱いについて」

会費の算定基礎である会員数のカウントについては各県へお任せしている。

休職者、会に所属していない者については除くという取り扱いでよい。

質疑2 「公費負担となっている県が財政当局へ予算要求、説明するための資料について」

各県の要望に応じて、説明に必要な資料を事務局で作成、提供していく。

(4) 規約改正について<審議>→承認

定年延長に伴い、役職定年制が導入された。各都道府県市の状況にもよるが、60歳を境に事務長職を離れなければならない地区が出てきた。現会員からの提案を受けて、過去2回の理事会において検討した結果として、賛助会員制度を導入したい。

賛助会員の概要は次のとおり。

- ・会員資格 全国公立学校事務長会の会員であった者
- ・年会費 1,500円
- ・会員概要 会報の送付、全国大会への参加資格(但し、議決権は持たない)

【施行】 令和7年度総会にて決定し、施行とする。なお、総会までの期間、本理事会での決定を準用する。

(5) 役員改正について<審議>→承認

令和6年度に棚澤副会長が途中退任した後、

空席となっていた副会長→(現総務)東京都立三鷹中等教育学校の安部 卓也氏を選出したい。

また、九州地区代表の改選に伴い、九州地区の副会長に佐賀県立神埼高等学校の石橋邦弘氏を選出。

2 協議事項

「令和7年度会長任期について」村田事務局長より提案→《承認》

現会長は令和7年8月7日の総会をもって退任となる。そして新しい会長を選出する必要がある。しかし、現会長は大変活動的に本会の運営に携わっており、高い運営能力と企画力に定評がある。そのため、会長としての職務を継続して行ってもらいたいと考え、継続を提案する。しかし、当人は令和8年3月31日をもって東京都の再任用終了のため、退職が確定している。これは動かせないことであるため、令和7年度の会長については小杉会長が継続してその任に当たることとし、任期は令和8年3月31日までとしたい。

そして、次(令和8年度)の総会までの期間(令和8年4月1日から令和8年8月7日まで)は安部副会長を会長代行として会を運営したい。

3 報告事項

(1)第48回研究協議会並びに総会の報告について

長崎県早田会長より報告

令和6年8月1日(木)・2日(金)九州長崎県長崎市「出島メッセ長崎」にて開催。

記念講演の講師は

株式会社 ジャパネットたかた

創業者 高田 明 様

(内容の詳細については会報131号を参照)

(2)令和7年度全国公立学校事務長会研究協議会並びに総会の開催について

牧原副会長より報告

期日 令和7年8月7日(木)、8日(金)

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

記念講演の講師は

神戸女学院大学 名誉教授 内田 樹 様

4 本部各部報告

本部(議案1で報告済み)

(1)企画部 会報の発行、HPの運営、総会において功労者49名を表彰

(2)調査研究部 全国基本調査を実施した。その他調査として、諸課題に対して各都道府県市の動向や実態を把握するため調査を実施。

地区事務長会作成の調査研究報告書の収集及びHPへ公開。

(3)特別支援部 第48回研究協議会において研究協議Ⅱを実施。

会報131号に実施内容や文部科学省講話の紹介を掲載。

5 質疑及び連絡

・茨城県より

第50回大会について

令和8年8月6日(金)、7日(土)

会場：つくば国際会議場

記念講演は東京大学先端科学技術研究センター 教授 西成 活裕 様

・事務局より

令和7年度第1回理事会の日程と会場

令和7年6月13日(金) 品川総合区民会館 きゅりあん 6階 大会議室にて実施



第48回全国公立学校事務長会研究協議会

公立学校（高等学校及び特別支援学校）における働き方改革について、研究協議を行った。

6月の理事会研究協議の続編である。

オブザーバーとして文部科学省初等中等教育局財務課公務改善専門官 遠藤 雅典 様に参加していただいた。

事前に各都道府県市から年度当初と中期における各地の①実態を調査したもの②方策などを提出してもらい、冊子にすることでその内容を全体化した。

研究協議として、一番目に事務室の業務方の人員不足、予算不足について、北海道、茨城県、高知県、鹿児島県から報告をしていただいた。そのあと、小杉会長および文科省遠藤様からお話をいただいた。

二番目に若手職員の育成について、秋田県、兵

庫県、熊本県、神奈川県から報告をいただいた。

三番目として教育行政および今後の課題と取り組みについて、島根県、福岡県、宮城県から意見をいただき、最後に東京都がとりまとめるに報告を行った。

最後に文科省の遠藤様から総括的なお話をいただき、本研究協議を終了した。

理事会における研究協議については各県に還元できるようにしたいと考える。成功した方策や失敗したものなどを検証することで、今後の在り方を見直していく機会としていくことは今後の事務長会の在り方にもつながっていくと思う。

なお、内容の詳細については冊子をご覧いただきたい。





とある東京の室長の一日

遠距離通勤者の朝は早い。大体朝5時に起床して、いろいろ用事を済ませ、家を出るのが5時55分前後、駅まで自転車で向かう。

夏は明るい、冬は真っ暗だ。メインの通りをまっすぐ進めば駅なのだが、途中外灯のない、もしくは外灯の薄いところがあり、注意が必要だ。自転車で車道を走るのは、結構恐ろしい。車が結構走っているからだ。

おまけに朝だと結構スピードが出ているから、もしひっかけられたら「さようなら」になる危険が多い。

歩道は更に注意が必要。真っ暗の中に黒い服を着ていると迷彩になってまったく見えない。

東京の場合、交通事故を起こせば処分もありうる、目を凝らしながらスピードを落として走る。

なお、東京はよほどの事情がなければ、自動車通勤は禁止で、もし勝手にやった場合は処分が下る。

駅に着くとかなり混んでいる。まあ、東京に通勤する者が多く住むベッドタウンなので、仕方がない。

電車は込み合っている。まあ、自分の住むところでは絶対に吊革にはつかまれるので、ましなほうだが、後の駅になるとそれすら難しい状況もある。

乗り換えはみな殺気立っている。自分の目的とする電車に向かって、ぎゅうぎゅうになりながら階段を昇る。人と人の間に隙間があればすかさず人が入ってくるし、ぐずぐずしていたら舌打ちが

飛んでくる。ここで人の情を期待してはいけない。

そんなこんなで8時前に職場につくと、書庫と金庫のカギを開けて、昨夜のうちに来ていたメールのチェック、後電子決済の処理を行う。あと、会計システムなどから予算配付や執行状況について、通知が来ていれば自分の分と担当者の分を打ち出し、担当者に渡す。

日々の業務はメール対応と、本庁からの調査対応が主だ。

ほかに事故・事件があれば対応でバタバタし、管理職から仕事が降ってくれば担当と一緒に頭を悩ませる。

施設も少しかじっている、そちらの対応も担当と一緒にやっている。

季節イベントでは、入学選抜は特に大きな、そして気が抜けないイベントだ。

いろいろ根回しし、対応を整えてもうまくいかないことが多々ある。

年度末の人事具申は処理すべき期間が短いので、本当に気が抜けない。

おおむねそんな生活だ。

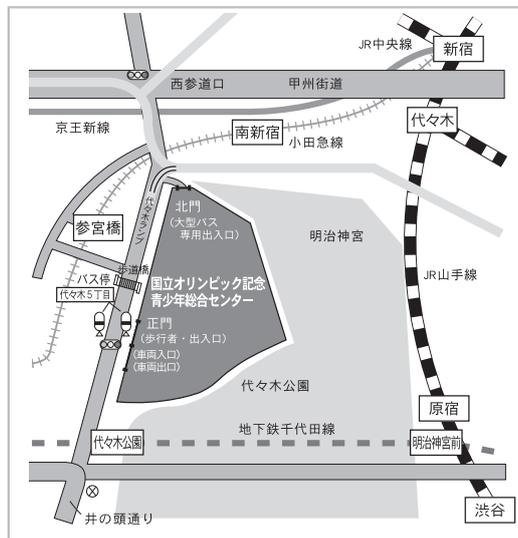
今回は、学校での出来事について述べたいと思う。次回があれば。

東京都立城東高等学校 齋藤 孝仁



第49回研究協議会並びに総会の日程及び内容について

- 1 目 的 全国公立高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び高等専門学校の事務長の職務について研究し、都道府県市並びに会員相互の情報交換を行い、学校の管理運営を円滑にするために協議する。併せて、会員の研鑽と資質の向上を図り、もって学校教育の進展に寄与する。
- 2 期 日 令和7年8月7日（木）・8日（金）
- 3 主 催 全国公立学校事務長会
- 4 後 援 文部科学省（予定）、東京都教育委員会（予定）、全国都道府県教育委員会連合会（予定）
全国高等学校長協会（予定）、全国特別支援学校長会（予定）
- 5 会 場 『国立オリンピック記念青少年総合センター』
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
[交通機関] 小田急線「参宮橋駅」下車徒歩7分



- 6 日程及び内容 8月7日（木）開会式、功労者表彰、文部科学省講話、研究協議
8月8日（金）総会、研究協議、記念講演
- 7 記念講演 講師 神戸女学院大学名誉教授 内田 樹 様